

## RCNP研究会報告

**タイトル：** 国際シンポジウム “Frontier of  $\gamma$ -ray spectroscopy” (Gamma15)

**開催日：** 2015年10月1 – 3日

**開催場所：** 大阪大学シグマホール

**共催等：** 主催 大阪大学核物理研究センター (RCNP)  
共催 理化学研究所仁科加速器研究センター  
東京大学大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター (CNS)  
協賛 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻

**参加者：** 79名 (学内 21名、海外 28名、国内他機関 30名)

**世話人：** 青井考 (RCNP, 共同議長), M. P. Carpenter (米・ANL), P. Doornenbal (理研仁科セ), P. Fallon (米・LBNL), 井手口栄治 (RCNP, 共同議長), 今井伸明 (東大CNS), 伊藤正俊 (東北大CYRIC), 岩本ちひろ (RCNP), 木村真明 (北大理), 小池武志 (東北大理), Y. K. Kwon (韓・IBS), Z. Liu (中・IMP), A. Macchiavelli (米・LBNL), 野地俊平 (RCNP, 会議秘書), 小田原厚子 (阪大理), F. Recchia (伊・Padova大), 櫻井博義 (東大理/理研仁科セ), 下浦享 (東大CNS), 民井淳 (RCNP), 宇都野穰 (JAEA), V. Werner (独・TU Darmstadt), K. Wimmer (東大理), 山上雅之 (会津大)

**ウェブ：** <http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/gamma15/>

### 概要：

本研究会は、2001年から3ないし4年毎に開催されているGammaシンポジウムのシリーズの5回目に当たる。今回は、不安定核および安定核の構造、実験装置・技術の今後の発展とそれに関連する話題を取上げ、計79名の参加を得て、20件の招待講演と26件の一般講演からなる計46件の講演と、それに基づく極めて活発な質疑が行われた。

特に、日米中の国際協力に基づき、国内外にあるクローバー型ゲルマニウム検出器を組み合わせ、構築したCAGRAを用い、RCNPのENコースにおいてこの春に行われた一連の実験の最新の結果が速報された他、WSコースにてGrand Raiden磁気分析器と組み合わせ、来年度に行われる予定の実験計画が紹介された。また、アメリカとヨーロッパでそれぞれ進められているトラック型ゲルマニウム検出器アレイ (GRETINA/AGATA) を用いた多数の実験の成果や今後の計画、理研RIBFでの最新の実験結果も報告された。更に、関連する理論研究の進展についても報告・議論がなされ、RIBFでの低エネルギー不安定核ビーム生成を目指したCNSのOEDO計画の進捗や、印中韓の各国で進行中の計画の紹介もあり、これに関して国際協力に関する議論も行われた。

本シンポジウムの前日 (9月30日) 午後には、理研RIBF・SUNFLOWER共同実験のワークショップも同会場にて開催され、既に行われた実験の解析進捗報告がなされ、今後の実験戦略に関して具体的かつ詳細に議論されたことも付記しておく。

このように、本研究会では、最近の進展が報告され現状がまとめられるとともに、今後の展望についても活発な議論がなされ、これは中堅・シニアの研究者のみならず、多くの若手研究者・学生にとっても、非常に有意義な研究会だったと言える。

### 予算執行状況：

RCNPからは35万円の予算が認められたが、国内若手研究者1名の旅費・滞在費と、海外から参加した学生の国内滞在費の計70,396円のみを執行した。

これは、競争的資金である平成27年度大阪大学「国際シンポジウム開催支援事業」からの旅費の拠出が認められたためである。この資金からは、新興国 (印中韓) で近年目覚ましい研究成果を上げている研究者を中心に、若手研究者・学生5名に渡航費と滞在費を、本シンポジウムのテーマである核構造研究の分野において、研究を先導し未来を担うヨーロッパ、アメリカの若手研究者3名に滞在費を、合計1,049,300円支給した。

これらの旅費補助により、特に多くの若手参加者を集めることができ、たいへん感謝している。